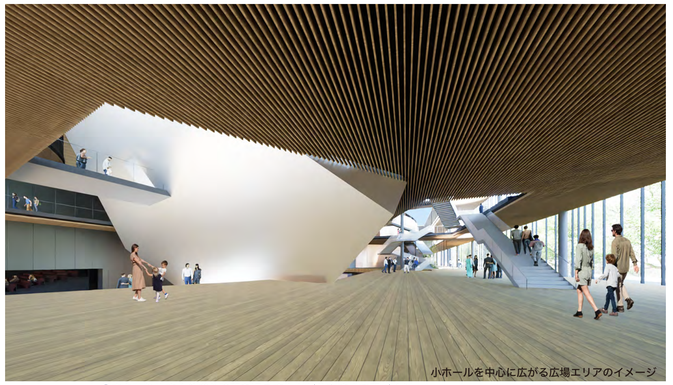
はるか仙台平野の記憶に想いを馳せ、みどりの杜に人々が出会う舞台をつくる

仲の瀬橋からの眺望イメージ

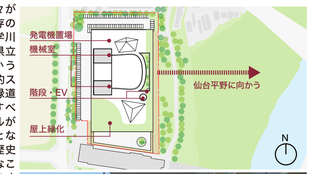

小ホールを中心に広がる広場エリアのイメージ

大ホールイメージ

①建築空間の魅力と総合的デザイン

01　建築は人々の出会う場所、館の内外を一体化し、ひとつながりの空間と捉える

国際センター駅には様々な人々が乗降し、本施設のみならず既存の仙台国際センターや、東北大学川内キャンパス、宮城県美術館、県立仙台第二高等学校など へ向かう人々が、日々駅や 2 階の多目的スペースを利用し、敷地周辺の緑道などを行き交います。それらすべての人々にとって、このホールが安らぎと楽しみを与える場所となり、震災の記憶を含め、仙台の歴史と文化に想いを馳せ、緑豊かなこの場所で出会い、共に時を過ごすことが、未知なる新たな世界の扉を開く、そんなきっかけとなるような「杜の舞台」を創ります。



仙台の歴史と文化に思いを馳せる、館の内外を一体化する回廊空間▶

②青葉山エリアの中での景観的位置づけ、果たすべき役割等

02　広瀬川中の瀬橋からの春夏秋冬の景観に配慮した、青葉山の緑に抱かれる低層の佇まい

主要な機能を地上 3 階に納め、交流ロビーやホワイエゾーンは広瀬川沿いのボリュームのある緑に接して連続的に配置します。館内を階を跨いで移動しながら、サクラの開花やケヤキなどの新緑の芽吹き、盛夏の緑陰、イチョウの紅葉など四季折々の木立を望むことができ、落葉する冬季にはほるか仙台平野の空の広がりが感じられます。大ホール舞台の床レベルを現状地盤より少し掘り下げることで、フライや客席に十分な高さを確保しつつも、周囲の緑から突出せず、青葉山エリア全体に抱かれたように溶け込みます。

03　震災の記憶に触れる空間、記憶をリレーする展示書架

展示室内に限らず、館内のあらゆる場所に展示が可能です。また人々の記憶を伝える「リレー書架」を随所に配置し、蓄積された様々な映像・音声や、日記、手紙、心に響いた言葉や心に残る本などを皆が持ち寄り、次世代に伝えられる場所とします。「まちライブラリー ＊」の一環とすることも考えます。クワイエットスペースは大ホール後壁沿いと小ホール底部に、それぞれ性格の異なる空間を設けます。(＊ まちの中のカフェやギャラリーなどに本棚を置き、メッセージをつけた本を持ち寄り交換しながらコミュニティ形成を図る活動)

③立ち寄りやすく多様な時間を過ごす人々が共存する空間づくり

04　回廊がロビーやホール、リハーサル室を結び、駅にも繋がる

国際センター駅に繋がる回廊が 2 つのホール / 2 つのリハーサル室を囲みます。交流イベントロビーに広がる大きな吹き抜けには、大ホール、小ホール、リハーサル室、練習室群や展示室などが顔を出し、全体が一望できるようわかりやすく配置します。下段の舞台芸術リハーサル室から駅前へと連なるサンクン広場を設けるなど、内部空間を外に開きます。

05　館内のすべてが人々が共に過ごす空間、思い思いに快適な場所を見出す

施設全体のエントランスとなる交流イベントロビーから、様々な方向に広がる吹き抜けや奥へと誘う階段などが、来館者がそれぞれに多様な時間を過ごし、居心地よく共存できる場所へと導きます。ホワイエへの観客動線は、外の緑を感じる東側 1 階から 2 階へ、また主催者・出演者側の動線は西側にまとめて、ホール開演時には両者を完全に切り離して干渉を防ぎます。練習室群は大ホール楽屋と舞台芸術リハーサル室から共に近い位置に計画し、市民が日常的に気軽に利用できる開かれた練習室とします。

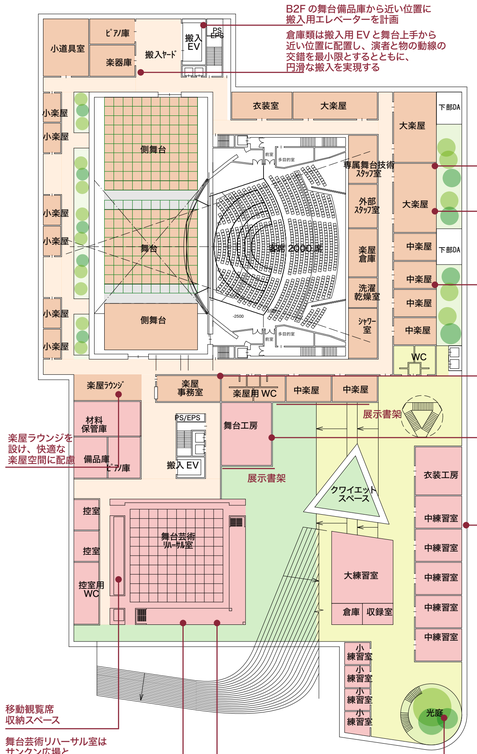
④施設計画・動線計画の総合的解決と実現性

06　円滑・安全な搬出入と、歩・車を明快に分離する動線計画

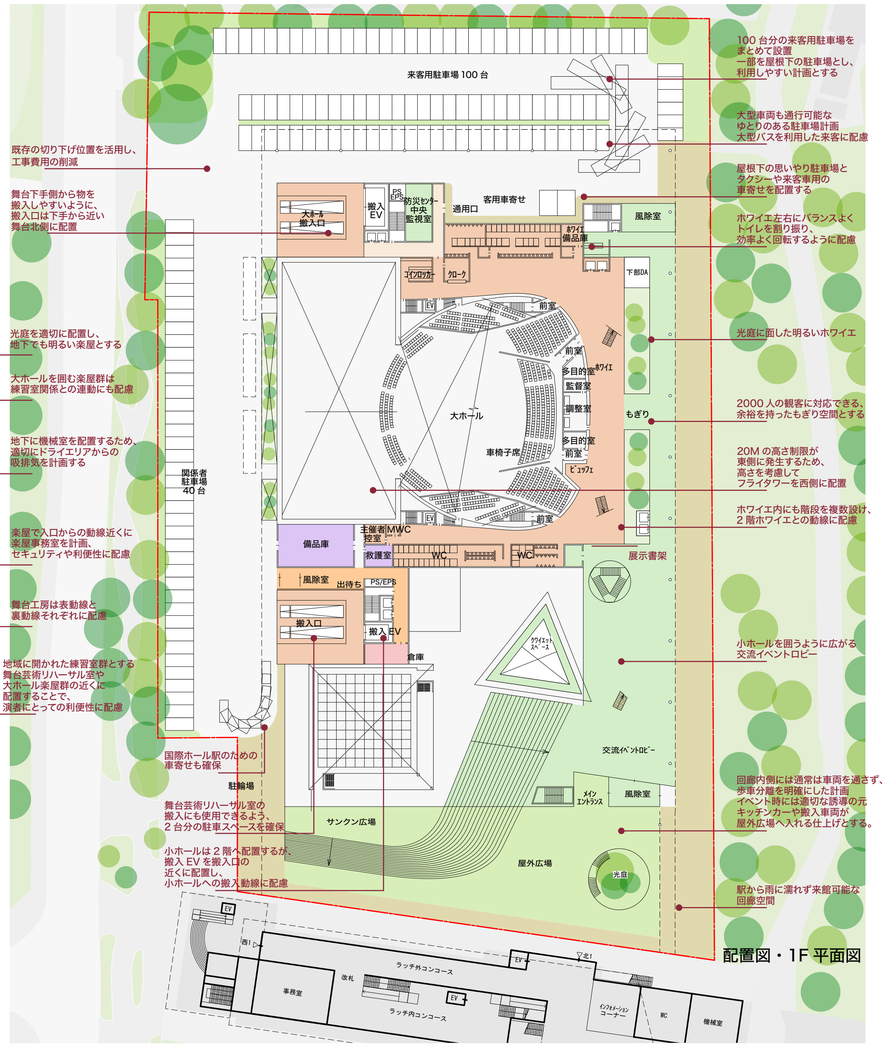
車両は現状の乗り入れ口を踏襲し、敷地の既存植栽を最大限保存する計画とします。大ホール搬入口は北西側の舞台上手側に取り、小ホール・舞台芸術リハーサル室、およびカフェ・レストランへの物品・機材の搬入は、南西側の共用搬入口を使います。共用搬入口は大ホールへのサブ搬入口ともなり、場合に応じてフレキシブルに活用できます。
敷地北側に利用者駐車場や、バス・タクシー乗降場、西側に管理用駐車場を配置します。利用者駐車場の一部はピロティ下とし、雨天や積雪時などに配慮します。敷地南西側に軒下となる広場を設け、国際センター駅にも送迎できる乗降場を計画します。

07　ﾌﾟﾛﾋﾞｱﾑ､ﾜｲﾝﾔｰﾄﾞの双方に可変の一体感のある大ﾎｰﾙと、ｱｰﾃｨｽﾄの創造性を刺激する特徴的な小ﾎｰﾙ

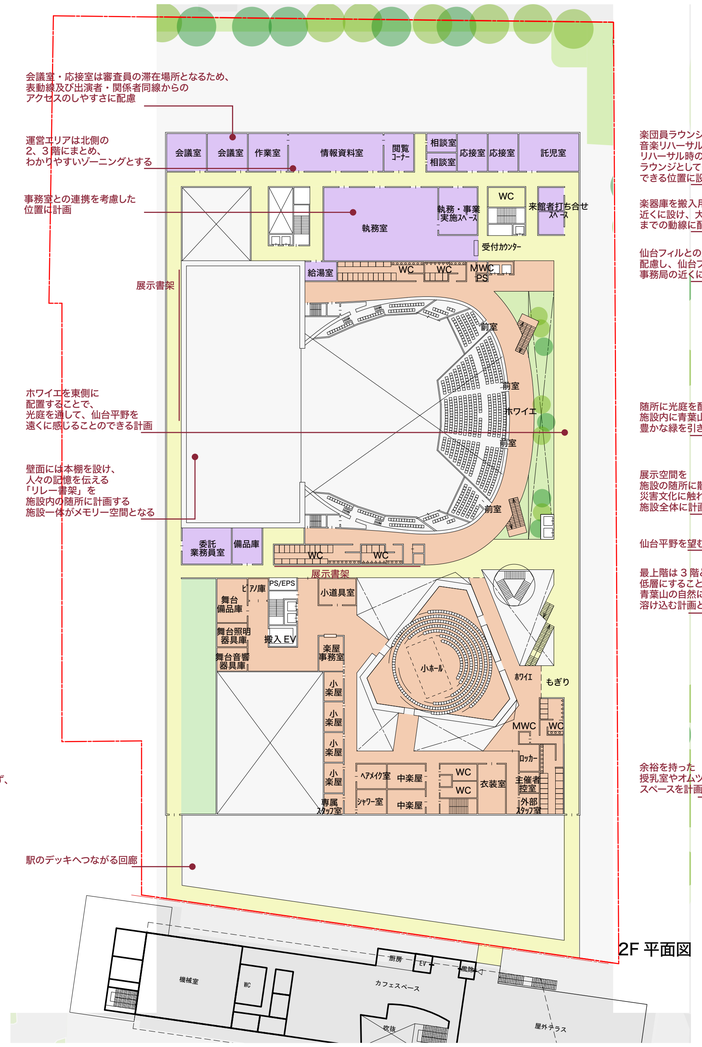
プロセニアム 1 階席の一部やオークストラピットを、ワインヤード形式時の舞台とし、観客が演者をぐるっと取り巻く一体感を感じさせつつ、経済性、合理性、メンテナンス性に優れた大ホールを実現します。ホール形式は、客席をエアキャスターと迫りで移動し、奈落に格納することで転換します。豊かな響きと明瞭度の高い音響を目指し、大きな気積、浮雲反射面、音響庇となるバルコニー、テラス壁などを県産材を活用してデザインします。移動サラウンド席や迫り、音響反射板などの可動部分をなるべく減らし、コストメリットを高めます。小ホールは角で立つ立方体とし、ホール内外に対し印象的で特別な空間を創出し、出演者の創造性を喚起します。エントランスステージタイプの多目的な舞台芸術リハーサル室に対し、小ホールは急勾配の円形劇場としてその違いや特徴を際立たせ、施設全体で多様な使われ方ができるよう計画します。



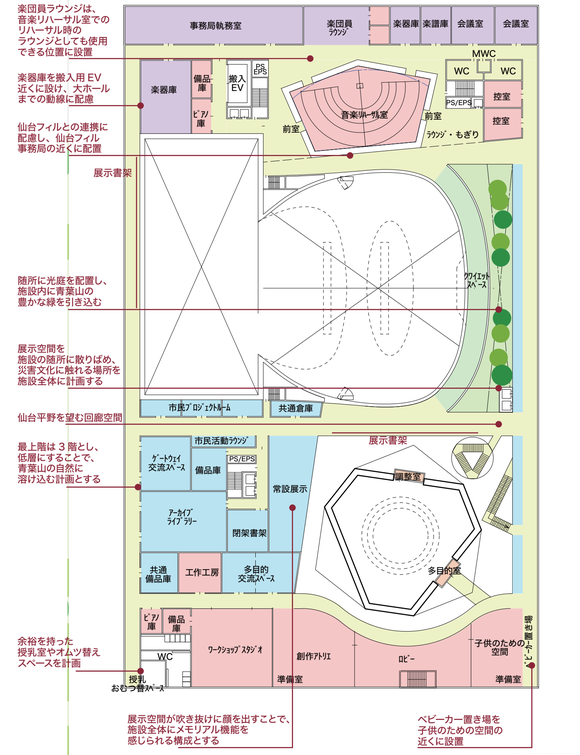
B1F 平面図



配置図・1F 平面図



2F 平面図

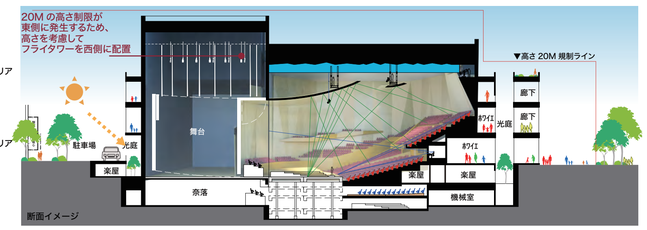


3F 平面図

3 階ｸﾜｲｴｯﾄｽﾍﾟｰｽ

1 階ｸﾜｲｴｯﾄｽﾍﾟｰｽ

地下 2 階イメージ



断面イメージ

断面イメージ

屋外広場・サンクン広場

小ホールイメージ